

# NPO法人 共に歩む市民の会 会 報



2012年1月1日 発行

共に歩む市民の会広報委員会

## 通巻 第33号

〒241-0022

横浜市旭区鶴ヶ峰2-1-16

☎045-953-6727

### 思いやりの心

ボランティア 野北正彦

「N P O 法人 共に歩む市民の会」の皆さま初めまして。

私は、昭和23年4月九州の福岡県田川郡に生まれました山育ちの六十歳すぎの一親父です。

ある数年前「社会福祉協議会」の紹介でほっとぽっとさんとご縁が出来ました。明るく・朗らかに・樂しく一日いちいちを過ごされている皆様に、私も元気をもらっています。

ほっとぽっと職員さん並びにメンバーさんの {思いやりの心} が満ち溢れているからだと思われます。

この紙面をお借りし、私の大好きな実際のできごとを皆さんにお伝えさせていただきたいと思います。知つていらっしゃる方もおられることと思いますが、あ々 仲間がいたと親しくしてください。

ある日、東京ディズニーランドに、若い夫婦が訪れ、レストランで「お子様ランチ」を注文しました。応対したアルバイトの青年は、とまどいました。この夫婦は、子供を連れていないのです。マニュアルでは、お断りすることになっています。

「おそれいりますが、大人の方には・・・・」と言おうとしましたが、思いとどまって「失礼ですが、お子様ランチはどなたが食べられるのですか」とたずねました。  
すると、奥さんがうつむいたまま話し始めたのです。

「死んだ子供のために注文したくて」

「・・・・」

「私たち夫婦には、なかなか子供が授かりませんでした。ずっと願い続け、やっと娘が生まれました。が、体が弱く、1才の誕生日を待たずに亡くなってしまいました。今日は、その子の命日なのです・・・・。」「そうだったのですか」

「子供が大きくなったら、親子三人でディズニーランドへ行こうと、楽しみにしていました。とうとう実現しませんでした。が、一周忌の今日、せめて私たちの心の中に生きている娘をディズニーランドへ、連れて行ってやりたいと思ったのです。本当に娘が生きていたら、ここで一緒にお子様ランチを食べたんだなと思うと、つい注文したくなって・・・・」

アルバイトの青年は笑顔にもどっていました。

「お子様ランチのご注文、承りました。ご家族の皆様、どうぞこちらへ」

と言って、この夫婦に四人掛けの家族テーブルへ案内し、子供用のイスまで持ってきたのです。

「では、お子様は、こちらへ」まるで子供が生きているかのように小さなイスへ導きました。  
まもなく運ばれてきたのは、三人分のお子様ランチでした。

「ご家族で、ゆっくりお楽しみください」アルバイトの青年は笑顔で去って行きました。

この心遣いに感動した夫婦は「お子様ランチを食べながら、涙が止まりませんでした。  
まるで、娘が生きているように、家族だんらんを味わいました・・・・」

と帰宅してから、お礼の手紙を書いたといいます。



このお話は、ディズニーランド生みの親（堀 貞一郎氏）が各地の講演でこのエピソードを紹介したところ大きな反響を呼び新聞・雑誌など口コミでも感動の輪が広がっているそうです。

この本当にあった話が今でも心にしみこんでいます。

## 「事件」一夢よ叫べ展を振り返ってー

ほっとぱっと ピアスタッフ 和田 公一

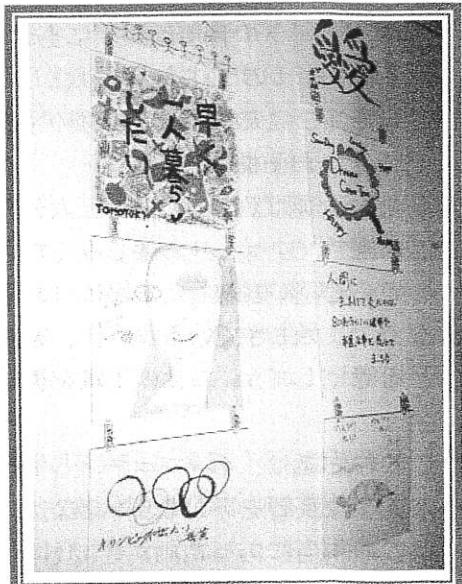
「夢よ叫べ展」を振り返ってという題で、原稿をたのまれたのだが、確かにほっとぱっと会場の「夢よ叫べ展」は終わったのだが、この原稿を書いている現在、「夢よ叫べ展」の巡回展をケアプラザ等、あと4か所もひかえているので、「終わった感」などありやしないのだが(笑)、ほっとぱっと会場における裏話を記そうと思う。

「夢よ叫べ展」が、神奈川新聞に写真入りで載ったことも、事件といえば事件だが、それよりも俺にとっての大事件が開期中にあった。神奈川新聞を見て、俺のオヤジとオフクロが訪ねてきたのだ！実は、俺と両親は、ずっと絶縁状態だった。だから、今年(2011年)の12月で5歳になる俺の娘(両親にとっては孫)の顔を、俺の両親は見た事が無い。実家は遠かった。何故に絶縁状態になったのかは、よくある話で、両親は俺の心の病気を理解する事が出来なかつたのだ。会うとお互につらくなるので、お互いに連絡を取り合わなくなつた。正月ですらお互いに電話一本も入れない関係になっていた。そんな両親が突然あらわれたのだから、俺が驚かないわけがない。大事件である。久しぶりに会った印象として、両親の外に発する波動の様なものがとても変わっていた。オヤジがあまりにも、おとろえていた。弱わ弱わしい声の、オヤジの声を聞いた時、とても切ない気持ちになった。両親の老いに感動してしまつた。

たぶん現在も、俺の両親は、心の病というものを理解していないだろう。でも久しぶりに会つてみて、もうそんな事どうでもよくなつた。オフクロから「お前は人に恵まれているね。」と言われ、俺もその通りだと思っている。

わだかまりが飛んで行つてしまつたので、近々、娘を連れて実家に顔を出そうと考えている。

(2011年10月26日(水))



# 第21回旭ふれあい区民祭り

今年の区民祭りは、会場の大幅縮小の懸念から始まりました。

いつもの会場で行なわれるのか否か、分らない期間が続き、結局「やります！」と決まったのは、セミがガンガン鳴いている頃だったでしょうか。

話し合いを急ピッチで進め、とにもかくにも、いよいよ前日。

ほっとぼつとは、明日が大雨かもしれない心配の中、本館・別館の準備・大風の中の公園の清掃など、最後は大幅変更の想定しつつの準備終了。

10月16日日曜。結局、大風がよかつたのか、雨より日差しも心配をするほどの快晴。

本当によかったです。

私はステージ担当でしたが、いきなり発電機が不調で事前準備の大切さが身に染みました。

午後はさらに日差しが強まり、ジャズの松井イチローさんのステージのランのリズムに乗って、セミが鳴き始め、一瞬、夏祭りかと思うほどでした。

テントの方からも、呼びこみの声や歓声で賑わっている様子でした。

お祭りの後は、片付けも大変でしたが、信じられない速さで元の姿に。

関わったすべての方々、本当に疲れ様でした。

宮地 博美



私自身が2回目の参加となる旭区民まつりも良い天気に恵まれ、楽しい一日を過ごせました。参加者の一人として感じた事を話したいと思います。

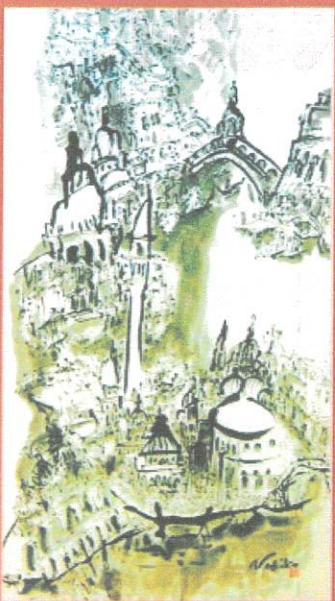
私も各会場を見て周りましたが、大変多くの人が来場されていましたのにビックリ致しました。ただ、人が多いために通行が不便になり、車椅子等が入れにくかったり、障害を持たれた方の出入りができず、参加してくれた方もほとんど居ませんでした。もう少しゆとりを取ったスペースの使い方が有ればと感じました。

私の会場は公園でしたので、特にスペースがなく、地面はでこぼこのため、障害者等の人の入場は無理だと感じました。できればもう少し工夫が必要と感じました。

又次回スタッフの一人として参加できれば大変うれしく思います。 石橋 洋一

作者からのお便り

～鮎澤のり子さん（会員）～



ヴェニスはカオス

鮎澤のり子

『共に歩む市民の会』の皆様、いかがおすごしですか？早いもので、ほっとぽっとで墨彩画『花樣年華 路地裏が大好き』展を開催させていただいて四年になります。あれから折に触れてかきためたものを表参道や渋谷で個展を開いてまいりましたが、今回は念願の地元『みなとみらいギャラリー』で、9月14日から6日間、5回目の花樣年華展を催すことができました。昨年船旅でまわりました『北のヴェニス』といわれるバルト海沿岸の、古い街並みの墨彩画や、歩きながら速攻で描いたスケッチなどを中心に、清水寺や浅草寺の雑踏、人知れず野に咲く花々など、おりにふれ心のおもむくまま、今こうして在る命に感謝しつつ、えがきためたものを展示させていただきました。

3.11以後ということもあり、のんきに個展などどうだろうか？などという思いも心をかすめましたが、ふたをあけてみてびっくりです。

会館と同時に大勢の方が、次々に見に来てくださり、受付の愛子嬢と嬉しい悲鳴です。最終日にはついに、1,187名様（いいはな）という記録的な方々にご来場たまわり感激いたしました。

これもほっとぽとの第二回の花樣年華展からずっと後援してくださった『共に歩む市民の会』の皆様のお陰、と、心から感謝いたしております。以前はただ描いているだけで幸せな私でしたが、展を通じて、様々なすばらしい方との出会いを繰り返すうちに、皆様からたくさんの生きるエネルギーを限りなく頂戴している自分に気づかせていただきました。出会いは素敵ですね。これからもせっかく咲いてくれた『いいはな』を枯らさないように、志を継続すること、与えられた命を燃えて全うすることを続けて行きたいと願っております。皆様どうぞ内なる声にしたがって、お元気でお過ごしください。

### 大盛況！

## 生命力みなぎる鮎澤のり子個展、横浜で開催

～会へのご寄付（41,111円）を大切に使わせていただきます～

鮎澤のり子さんは、ご近所のS生協の仲間、そして日頃から、精神障害者及び、家族会への理解を深めて、わが家族を励ましてくださる大切な人です。

2007年1月31日 詞画集「花樣年華 路地裏が大好き」を自費出版するご案内をいただき、主人と共に初めて素晴らしい絵と出会いました。私は嬉しくて、様々な方にお見せしようと詞画集を持ち歩いていたところ、ほっとぽとの川田剛さんの目に止まりました。

区民まつりに参加する、共に歩む市民の会に協力して、2007年10月、ほっとぽと別館で、個展、花樣年華展 Vol.2「路地裏が大好き展」を開催いたしました。その後も、表参道や、みなとみらいの個展などご活躍の場を広げられました。

鮎澤のり子さんの絵が大好きです！沈んだ心を明るくさせ、私の魂を揺さぶり眠っているエネルギーを沸き立たせてくれます。

地域への広がりが新たな人と人の出会いとなっていくことを願って私は、鮎澤のり子さんのメッセージ「地球上の命は等しく大切」を心に刻み、これからも応援をさせていただきます。



応援メッセージ

志澤希久子さん（会員）

# 2012新春 市民の会・ほっとぽっと スケジュール

街の小さな文化館 ほっと たつはな亭  
ギャラリー「夢よ叫べ展」 巡回展



スケジュール

お気軽にご参加ください

「当事者のみんなは、何処に向かって歩いているのだろうか?」そんなことを考えながら企画した、今回のギャラリー…みんなの「夢」を色紙に表現した作品展となりました。10月のほっとぽっと別館での展示をご覧になれなかった方も含め、ぜひお越し下さい。

\*1月13日(金)～17日(火) 9～21時(日曜日17時) 川井地域ケアプラザ 1Fにて

\*2月 2日(木)～ 6日(月) 9～21時(日曜日17時) 鶴ヶ峰地域ケアプラザ 1Fにて

\*3月16日(金)～20日(火) 9～21時(日曜日17時) 左近山地域ケアプラザ 3Fにて

～左近山については、日程変更の可能性があります。詳しくは、3月号ほっとぽっとニュース

または館内掲示でご確認ください。～

\*1月23日(月)～29日(日) 横浜創造都市センター(YCC)

～YCCでは、アートサイトに参加している他の団体と同時に展示開催します。

➤ コンサートは、現在企画中!自主企画の朗読会なども検討しています!

➤ 親子で楽しむ 整体講座&紙しばい IV

\*2月9日(木) 10:30開演(開場10:15) 会場=ほっとぽっと別館

出演者=整体:山上 亮／紙芝居:としょくん 先着10組・要予約

参加費/一組(親1人+子1人) 500円・・・お子様が複数の場合 1人300円プラス

満1～2才前後のお子様とお母さんが対象ですので、お知り合いにいらっしゃればご案内ください。

第13回 旭区精神保健福祉セミナー 旭福祉保健センターと共に歩む市民の会 共催

タイトル:『心の病をあきらめない!』～障がいがあってもいいじゃん。自分らしく生きよう～

日時・場所:2月18日(土)12:30～15:30 旭公会堂(旭区役所4F)

講演:黒田ひとみ氏 「当事者のちから～当事者・家族・支援者、地域の役割～」

今回は、当事者のちから(エンパワメント)をテーマにしながら多様な生き方を認め合い、支え合う生き方を多くの方々に知っていただきたいという願いを込めたものです。内容は、体験発表、講師講演の2部構成にし、質疑応答の時間を多く設けるようにしました。講演者の黒田さんは、神奈川県職員として精神保健福祉分野において、精神障害者の当事者団体、憩いの場つくり、エンパワメントプログラムの作成、ピアカウンセリングの導入、ピアサポートーの養成に努めてきたかたです。

是非ともお時間を作って、当日会場へいらしてください。

やみなべ会(以前の幹事会)

《今回の報告》11/30は、「学校関係者を囲んで」と題し、神奈川県立横浜修悠館高等学校の立川直之先生をお迎えして、通信制の学校の現状・取組みなど、普段知る事のできないお話を聞くことができました。参加者も20名と多く、会員のみなさんの関心の高さを感じました。

《次回》新年1回目は、鍋を囲みながらの新年会!と決定しました。

1月30日(水) やみなべ会 d e お鍋 18:30～ ほっとぽっと本館 <参加費>¥500

☆飲み物は自前、参加は自由ですので、会員の皆様もこの機会にぜひぜひ参加してください☆

(申し込みは「ほっとぽっと」までご連絡ください。)



# 新人紹介

はじめまして。10月より、ほっとぽつとの職員として加わりました塚田千明と申します。

生まれも育ちも横須賀で、海と山に囲まれながら、のんびりと育ちました。

10月の入職を前に、8月の半ばよりアルバイトとしてほっとぽつと関わらせて頂いていたのですが、それから早数か月…。徐々に通っている皆さんから声をかけてもらう機会も増え、充実した日々を送っています。

大学時代、主に精神保健分野を学ぶ中で精神疾患を抱える人々が持つ力強さに惹かれ、その力を十分に発揮できるようお手伝いをしたいという想いから、この職種に就きたいと考えました。縁があってほっとぽつとを紹介していただいた時には、ぴあスタッフと職員が共に「ほっとぽつと」を作り上げている姿を見て、「ここは私がやってみたいことが詰まっている！」と、どこか運命的なものを感じてしまいました。

まだまだ未熟な点はたくさんありますが、「日々、楽しむこと」をモットーに、様々な経験をしながら精進していくことを思っています。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 平成23年度『精神障害者地域交流促進事業』

「地域で暮らす当事者にとって、より身近な場所での相談・居場所を確保するために、区内のケアプラザ(10ヶ所)の相談機能を強化し、生活支援を実施する」ことを目的としたこの委託事業も、2年目となります。

昨年は講演会を中心に活動しました。『さて、今年はどうしようか?』と迷っていた所月の市の実行委員会で『地域の方に来てもらうのを待っているだけではなく、こちらから地域に出て行ってPR活動をしてはどうか?』という声が上がりました。そこで、今年度はケアプラザが年に1回地域交流を目的に開催する福祉フェスタ(ケアプラザによっては“ふれあいまつり”と呼ぶ)に注目し、10/8若葉台ケアプラザ・11/13鶴ヶ峰ケアプラザ・11/19川井ケアプラザのフェスタに参加をしてきました。

ほっとぽつと専用のコーナーをいただき「心の病の相談窓口」を設置、家族会やピアスタッフにも参加してもらい、チラシや看板でPRをしました。また木楽舎さんやマインド葦さんにもクッキーやケーキの販売で協力をいただきました。

実際の相談はほとんどなく、チラシ類もあまりさばけませんでしたが、『地域にはこのようなところがあるよ』ということを知ってもらう一つのきっかけになったのではないかと思いました。 岡田 美佐

### 編 集 後 記

- ✿ 来年も「減量」が目標!!…何年間、同じなんだろう… (0)
- ✿ 来年はベビーラッシュで、なんと5人の孫持ちになってしまいます。(K)
- ✿ 母からどんどん離れていく我が子。今年は何をやらかすかコワい。普通に仕事させて~(MI)
- ✿ 昨年は、大きな災害と人災の年でした。今年は平安な年でありますように (ST)
- ① 今回は心温まる内容になっておりますなあ♪体はこんなに寒いのに…(泣) F.T